

## 核兵器と私たちの未来： ウクライナの危機から何を学ぶべきか？

Jessica Omuna Anabor

### 「2頭の雄牛が闘うとき、苦しむのは草である」——スワヒリ語のことわざ

「核」「戦争」「軍備」——危険、飢餓、死を意味する3つの異なる言葉。大量破壊を引き起こす3つの卑劣な言葉。心、精神、魂に恨みを残す3つの呪われた言葉。

あまりにも長い間、世界の超大国は、核戦争の脅威に煽られながら、数十年にわたって軍拡競争という秘密のチェスゲームに参加してきた。チェックメイトは存在しないように見える。ただひたすらに軍事費が増えているだけだ。

残念なことに、核戦争の撲滅は困難であると理解することが極めて重要である。とはいえ、戦争は常に国家間の対立における最終手段とみなされるべきだ。ここに登場したのがロシアーウクライナ戦争である。

ロシアがウクライナに対して、戦争を選択するという不適切な対応をしたことは間違いない。ロシアがこのような思い切った、命を顧みない決断をした理由は、かつての栄光を取り戻すというイデオロギーにあるのだろうか？ それはわからない。しかし、一つ言えることは、ロシアーウクライナ戦争によって、かつてないほどに核不拡散が国際的に大きな関心事であり、**軍縮**の必要性がますます高まっている現実が描き出されたということだ。

### 不安な時代の軍縮

軍縮、その必要性。軍縮を渴望する声は、今よりも何十年も前にさかのぼることができる。それは、核軍拡競争と、それらの核兵器から放出される放射能に立ち向かうための重要な行為である。それは、人間の、政治の、社会の、心理の福祉を守るための行為である。

残念ながら、これまでに真の軍縮は達成されていない。軍縮を訴えても、具体的なものはほとんど生まれてこなかった。ロシアーウクライナ戦争は、世界の超大国が軍縮という行為にいかにも真剣に取り組んでこなかったかを端的に示している。

核戦争はその影響において、罪なき一般市民の心と体に永久に残る傷跡を残し、子孫に奇形を残し、人々を絶望の淵に落とし、無力にし、信じる心を失わせてきた。使い古された言い回しであるが、もう一度言おう。**核戦争に勝者はいない**。私たちはまさに、個人の生活がその回復力を不必要に試され、人々が日々、誰も望まないような窮地に追い込まれる時代に生きている。私たちは常に緊張を強いられ、常に不安で、目覚めた日が最後の平穏な日にならないようにと常に願い、祈り続けている。

飢餓や貧困、悲惨な病気を減らすために分配できるはずの莫大な資源が、拡大し続ける軍拡競争の中でただただ浪費されている。私たちは、より高い精度をもってより迅速な攻撃を可能とする、より使いやすい、恐ろしい兵器を目の当たりにしている。各国にとっては、このような恐ろしい新兵器を受け入れるか、あるいは占領された国になるかの二択しかないのである。

一定数の国は、軍縮を優位性の放棄と考えているようだ。軍縮の問題点として、それが国家による安全の確保（それは意表を突くという要素を必要とするものであるから）を難しくすることを挙げる人もいる。いずれにしても、どの国にとっても、核兵器が存在することはその国が核攻撃の標的になりうるということが認識されていない。

大量破壊兵器は、ある国にとっては国家の権力や覇権を示すものであり、また、他の国にとってはかつての栄光を取り戻すための触媒でもある。そのため、すでに悲惨な状況をさらに緊張させ、必要なものために欲求を放棄する行為を求めている。いかなる恐ろしい核兵器の秘密裡の作業をも暴くような現地査察を実施する（もちろん無通告で）必要性は刻々と高まっている。

戦争は、その当事国だけにとどまらず、国境を越えて影響を及ぼすものである。ロシア－ウクライナ戦争により、インフレの進行、食糧不足、避難民の不法移民化など、さまざまな現象が起きている。いずれにせよ、戦争は人の心に大きな傷跡を残してきた。戦争は、私たちが「もうやめよう」と言い出すだけでなく、私たち皆が「もう十分だ」と判断し、あまりにも短い時間に、あまりにも状況が悪化してしまったと理解するまで、簡単には止まらない。それまでは、私たちは永遠にhamsterの車輪の中にいるようなものだ。本来できるはずのことは何もできず、疲労が忍び寄るまで円を描いて回り、最後にやっと止まる。止まった瞬間にはすでに手遅れであり、すべての希望は失われ、未来は闇に包まれている。

### 得られる教訓

原子力は貴重な資源を守るために必要なものであり、それ自体が問題ではないことに留意しなければならない。ここで問題となっているのは、様々なエゴを満たすために、無責任かつ有害な原子力の誤用があるように見えることである。

戦争は人道性とは無縁のものだが、戦争そのものは呼吸と同じくらい人間らしいものがあり、それ自体が不幸なことである。核兵器を用いた戦争は、すでにエスカレートしている紛争をさらに悪化させうる。

個人や無辜の民間人が軍縮を切望するとしても、結局のところ、それを実現できるのは、それを実行する力を持つ人々である。

私たちは、目の前の困難を認識し、強い意志を持ち、最大限の結果を得るために積極的に動くことのできる、打たれ強く力のある実行者と、目的意識のある協力者を必要としている。このようなリーダーは、武器との闘いにおいて絶対に欠かせない。もし、そうしたリーダーが忍耐強さと強い意志、そして目的意識を持てなければ、ことわざにあるように、兵器に**打ち勝とう**として、結局、兵器に**魅惑**され、その**一部**となってしまうだろう。